



解明!

犯罪対策

～社会安全政策入門～

第2回

犯罪爆発が起こる
メカニズム

警察大学校警察政策研究センター所長 田中法昌

「白いリボンの謎」

住宅地を散策していると、家の周りの、細くて白い紐のようなものに気付いた。何やら複雑な形にも見える。近寄ってよく見ると、それは紙でできているようだ。秋の風に吹かれて、今にも千切れそうな風情でひらひらと揺らめいている。

これは何だろう。誰が何のためにつけたものなのか。そう思って改めて周りを見渡せば、一戸建てにはこの「リボン」が付いているが、マンションやアパートなどにはないようだ。高層住宅にこれを付けるとなると大仕事だな、などと考えつつ辺りを歩くうちに、リボン付けの現場に出くわした。

年は70歳前後だろうか。小柄な男性が、脚立を使って家に白いリボンを付けた後、玄関先に「祭礼」の札を貼っている。思い切って聞いてみると、近くの神社の秋祭りに寄付してくれた家にお飾りをしているのだという。身が軽いと思ったら、大工さんだそうだ。昔は付ける家がもっと多くて手分けしてやったものだ、などと話してくれた。

このことは日本社会におけるコミュニティの崩壊を明確に示していたといえよう。

老若男女が参加する秋祭りなどの行事は、地域の有志の寄付や労力奉仕によって維持されることで、地域住民の一体感をはぐくんできた。ところが、都市化が進み人口の流動性が高まるとともに、従来の町の活動に参加しない住民が増え、一方で、これまでボランティアで地域活動を支えてきた人たちが高齢化し、両者が相俟って、コミュニティ活動が弱体化したのである。

最近、電車の中や、歩いているときまで、イヤホンで音楽を聴き、携帯でメ

ールを打っている人を多く見る。自分のことだけしか頭になく、周りの人の迷惑は全く気にならないかのようなのである。自己を中心とした個人的空間が広がった一方で、他人と助け合う気持ち、お互いを見守る力が更に弱まっているのではないだろうか。

安全に、安心して生きていくためには、人間は助け合っていかなければならない。そのために地域社会、コミュニティの果たす役割は重要である。人は孤島ではない。

1 社会の変化が犯罪を変化させる

(1) 産業化と社会変化

今回はまず、犯罪変化の原因であるさまざまな社会的要因の変化について考えてみましょう。

英国では、1950年から1990年の40年間で犯罪全体が約10倍に、暴力犯罪も約4倍に増加したといえます。その原因となる社会の変化について、ある学者は、電話の普及、自動車保有台数の増加、高速道路の開通、大規模ショッピングセンターの増加などを挙げた上で、親の権威低下などの家族構造の弛緩、宗教の希薄化、テレビでの暴力場面の増加などのポストモダン化（明確な道德秩序を否定する態度）で法秩序一般への態度が悪化したこと、アジア系、カリブ海系の外国系の市民が増加したことなどにあると分析しています。

(注) アンドリュー・ローゼン。なお、後掲参考図書参照。

実は、犯罪の激増は、先進国が20世紀後半に抱えた大きな問題でした。その中で、我が国は、経済成長による産業化の進展と社会の現代化にもかかわらず犯罪の急増を経験しない国として不思議がられていたのです。

(2) 日本の犯罪は増加してきた

しかし、犯罪統計をみると、刑法犯の認知件数は、昭和55年に130万件を超えてからは増加傾向にあり、特に平成9年から14年までは年間10万件以上の激増が続き、ついに年間280万件を超える認知件数となった（平成の犯罪爆発）のでした（図1参照）。

日本も決して特殊な国ではなかったのです。先にローゼンが指摘したような社会変化が、時期こそ遅れたものの、日本でも同様に起こり、それが犯罪増加の原因となってきたといえるのです（前号で説明した、平成のはじめに福井県で高速道路利用による広域窃盗が頻発したことを思い出してください。高速道路整備が広域犯罪を可能にするのです）。平成の犯罪爆発を引き起こすことになった大きな社会変動、それはどのようなものだったのでしょうか。

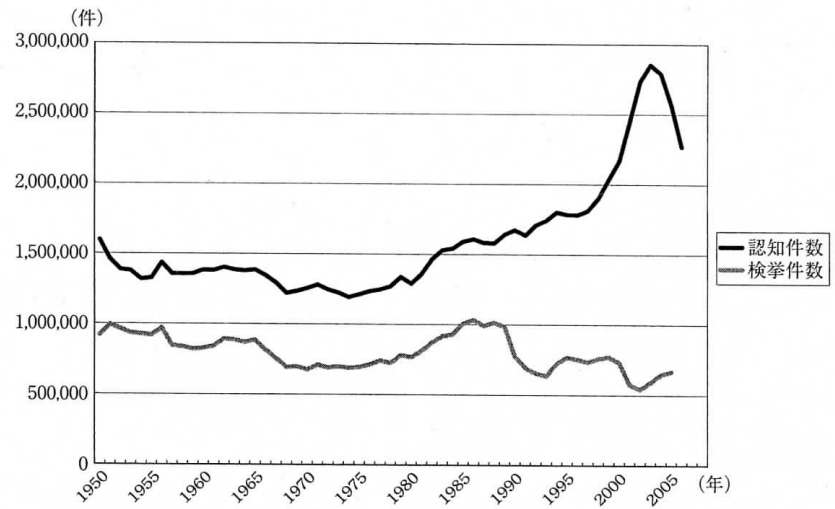


図1 刑法犯の認知件数及び検挙件数の推移

(3) 社会の変化

キーワードは産業化の進展による社会の豊富化・便利化です。具体的には、自動販売機・コンビニ・ファミレス・各種レジャー施設の急増と24時間営業化。携帯電話、インターネットの普及。外国製品（冷凍食品などもそうですね）の一般化。

まず、さまざまな商業施設が夜間まで営業することで、万引き・ひったくり・強制わいせつなどが増えます。豊富な商品は万引きを誘発し、夜間に金品を持ち歩く人の増加はひったくりの増加につながります。女性の社会進出などで夜間の外出が増えたことは性犯罪を急増させるはずです。

これと同時に、商業施設等への交通手段である車両を対象とした犯罪（車上狙い・部品狙い・乗り物盗・占有離脱物横領）も急増します。

「物を収容する倉庫兼現金を保管する金庫」である自動販売機が路上などの監視の届かないところに増えれば、それを狙う犯罪が増えるのも当然ですね。器物損壊も急増していますが、これには自動車や自動販売機を対象とする犯罪の未遂が相当含まれています。

実は、今挙げた犯罪だけで全犯罪数の2/3以上を占めるのです。刑法犯認知件数が量的に激増し、国民が犯罪被害に遭う機会が急増したのは、このような理由によるものです。

こういったも、今の若い人たちには理解できないかもしれません。「自販機もコンビニもずっと昔からあったんじゃないの？」違います。ここに挙げたものは皆、平成に入ってから急増したもののなのです。

昔話をしましょう。私が警察庁に勤務し法改正作業に従事していた昭和57年の正月のこと。大晦日を職場で過ごした後の正月の食事をどこで確保すればいいの、大いに悩んだ末、結局東京駅まで駅弁を買いに行ったのです。25年前は東京のど真ん中でも正月に買い物をするとするとそんな不便な状況だったのです。年中24時間開いているコンビニが氾濫している現代社会がいかに便利か分かりますね。しかしながら、前号で述べたとおり「便利は危険」なのです。

次に、犯罪の質的な変化につながる社会の変動についてです。キーワードは国際化とIT化です。東京などの大都会だけでなく地方都市においても、多数の外国人の姿を見ることが普通になりました。特に、労働者として在留許可を取る日系人、技能研修生、留・就学生などが増えました。また、インターネットやクレジットカードなどの世界共通の情報交換システム使用が常識ともなりました。昔は海外旅行に行ける学生なんて少数で、わざわざトラベラーズチェックという小切手を購入したものです。今は、気軽にカード1枚持って世界中に行くことができます。このような国際化の進展に伴う来日外国人の増加、国際交流の進展は、薬物犯罪、スキミングなどのカード対象犯罪、さらには、ピッキング用具を使用した侵入窃盗、暴力団と連携した侵入強盗を増加させることとなりました。また、携帯電話普及とそれによる利用者特定の困難化は、電話を悪用した詐欺事件（「オレオレ」などの振り込め詐欺事件が典型）を急増させることにつながったのです。

侵入盗も振り込め詐欺も、「家の中に犯罪者が乗り込んでくる」、という点では共通していますね。「家の中に居ても犯罪から安全ではなくなった」、犯罪に対する国民の不安感が増大したのは、実はこの点が原因だったのではないでしょう。

(4) 国民意識の変化

このような物理的な社会環境の変化だけが、犯罪増加の原因でしょうか。そうではありません。国民意識も変化しています。

まず、住民同士の助け合いが困難化し、コミュニティの力が低下しているのです。冒頭に挙げたのは私自身が実際に経験したことです。過疎化、高齢化の進展、共働きの増加などから今やどこでも地域コミュニティを維持する人が少なくなってきています。

次に、国民の遵法意識が著しく低下しているようです。私は、これはバブルの影響が大きいと考えています。バブルの最盛期にかけて、日本中に拝金主義が横行し人々の倫理観を麻痺させたからです。

今述べたことに関連する事実をいくつか最近の新聞報道から挙げてみましょう。

- 読売新聞の調査によれば、「家族のきずなが弱くなっている」と思う人は約9割に達しました。家族とのきずなは、地域とのきずなの基礎をなすものでしょう。
- 平成18年に弁護士会から懲戒処分を受けた弁護士の数と懲戒請求を受けた件数はともに過去最多でした。
- 駅員に対する暴力事件が急増しています。
- 児童虐待、DV被害の件数はうなぎ登りです。
- 個人情報保護の徹底から町会名簿なども作成が困難になり、消防団員数はこの50年間で半減し、高齢化も急速に進んでいます。

孤立した人間ほど弱いものはありません。地縁、血縁、趣味の集まりなど、さまざまなコミュニティが弱い人間同士の助け合いやルール違反の防止に役立ってきたのです。ところが、社会環境も加害者・被害者の意識も、犯罪が容易となる方向（コミュニティの弱体化、遵法意識の低下）に変化してしまったのです。

なお、バブル崩壊と景気の悪化が犯罪急増の主因だと主張する人がいます。経済的な原因が犯罪急増の一因であることは否定できないと思いますが、犯罪という大きな社会現象の変化を単一の原因で説明しようとするのは誤りでしょう。犯罪の増加につながる社会変化を図2に示します。

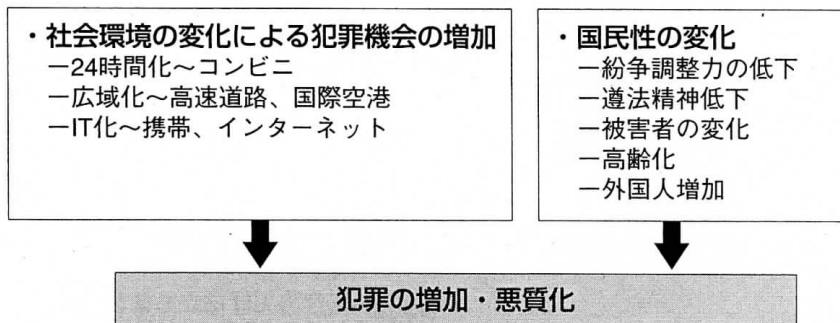


図2 社会変化と犯罪

(5) 警察の役割

ここで犯罪に影響するもう一つの要因について説明しましょう。それは、警察活動です。たとえば、経済的な利益を得るための犯罪（窃盗がその代表）について考えてみましょう。犯罪をすればするほど犯罪者の経済的な利益は上がりますから、これを放置すれば犯罪は増加するばかりです。そこで、犯罪者に不利益を与えることが必要になります。犯罪が摘発・検挙され犯人が処罰されたり、犯罪による不法収益を没収されることがそれに当たります。そのために

大きな役割を果たすのが警察による捜査です。したがって、警察活動が十分に
行われないと犯罪を増加させることにつながってしまうのです。

このことは、およそ犯罪一般についても言えることです。警察が十分な余力
をもち、新しい犯罪への対応力を保持することが犯罪抑止への大きな力となる
のです。検挙活動だけではなく、街頭のパトロール、困りごと相談、巡回連絡
などの活動が犯罪の予防に与える影響は大きなものです。このような活動が不
十分になることで犯罪増加が引き起こされるのです。過去に「検挙は最大の防
犯対策」と言う人がいましたが、「検挙は防犯対策の最後の砦」という方が正
しいと思います（なお、このような警察力の危機的状況と犯罪増加との関連を
指摘したのが、後掲の参考図書「聖域なき改革」警察学論集第55巻11号です）。

2 犯罪の増加と減少

(1) 犯罪激増のメカニズム

前掲のグラフをもう一度みてみましょう。刑法犯の認知件数と検挙件数は並
行して増減していたのに、平成に入る頃から全く違う変化をみせていますね。
認知件数が急増したのにもかかわらず検挙件数は増加せず、逆に急減していま
す。これは、警察力が犯罪の増加に対応できず、犯罪を十分に抑止できなくな
っていたことを表しているのです。このように検挙が減ると、犯罪をしても捕
まらなと考える犯罪者が増え（いわば犯罪の期待利益が増加したといえます
ね）、犯罪を急増させることになります。この犯罪増加のメカニズムを図示す
ると図3のようになります。

- 1 社会の利便性向上→犯罪機会増加
国民性変化→犯罪抑止力低下
- 2 犯罪機会増大・犯罪抑止力低下→街頭犯罪大量発生
→検挙率低下
→警察の犯罪抑止力低減
→犯罪検挙リスク低下
- 3 犯罪の容易化→強盗・侵入盗などの重要犯罪増加

図3 犯罪の増加過程

平成の犯罪爆発の原因は、長期的に見れば社会の便利化、倫理観の低下とい
った社会の変化なのですが、警察の犯罪抑止力が急低下したことがその引き金
になったと考えられます。

(2) 犯罪増加への対策

さて、先のグラフによれば、平成14年をピークとして日本の刑法犯認知件数
は急激に減少してきています。いったいどのようにして、図3に示した犯罪増
加の過程（悪循環）を停止させて犯罪を減少させることができたのでしょうか。
それは、犯罪増加の原因となった要因に応じた対策、特に環境と被害者の側を
重視した犯罪予防対策が、国の重要課題として取り上げられるに至り、全国に
おいて実行されたことによるものなのです。

これまでの犯罪対策が、犯罪発生後の、しかも犯罪者に対するものであった
ために、平成の犯罪爆発を引き起こしてしまったことへの反省に立って、この
新しい犯罪対策は、「犯罪の予防」を目的として「被害者支援」の重視を基本
にしたものです。

次号では、これまでの犯罪対策では無視されがちだった「被害者」について
考えてみましょう。

〈参考図書〉

今回述べたことをもっとよく理解したい人のために。

- ・ アンドリュー・ローゼン「現代イギリス社会史」岩波書店。産業化の進展が英国社会に
どのような影響を与えたかを解説。
- ・ 田中法昌「聖域なき改革」警察学論集第55巻11号。広島県警察の置かれた危機的な犯罪
状況、その改善策としての組織改正について詳述。なお、広島県警察が中心となって推
進した犯罪対策の主導者であった竹花豊本部長はその後、東京都副知事、警察庁生活安
全局長として全国の犯罪予防対策を指導することになる。
- ・ 前田雅英「平成の社会と刑事法理論の変化」警察学論集第60巻11号、「刑事警察の課題」
刑事資料第59巻2号は、社会と犯罪の変化、それへの対応について著者の警察官向けの講
演をまとめたもの。

（たなか・のりまさ）